



～飯綱山こそ われらが希望～

飯綱中学校相談メール iichu-soudan@edu.town.iizuna.nagano.jp

## 第51回飯綱校祭「輝きの正体」をもとめて

10月2日(金), 3日(土)に飯綱校祭が開催されました。今年度は校祭テーマを「万里一空 ～一人ひとりが光輝けるように～」とし、生徒会、各教科、各学年・学級、部活動・クラブ活動で準備を進め、当日を迎えました。今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、発表場所や公開の仕方等に制限を設けた中での開催となりました。しかし、校祭テーマの実現を目指し、様々な場面で「一人ひとりが光輝ける」ための工夫が見られた2日間の飯綱校祭でした。

開祭式では、校祭ポスター、校祭パンフレットの表紙絵を描いた清水緑里さんに感謝状が贈られました。また、全校生徒が制作に関わったしぼり染めが披露され、仕上げを担当した美術クラブにも感謝状が贈られました。そして、各クラスの代表生徒が校祭に向けたクラスの意気込みを発表し、生徒会長・藤澤至恩さんの開祭宣言により、第51回飯綱校祭の幕が切って下ろされました。



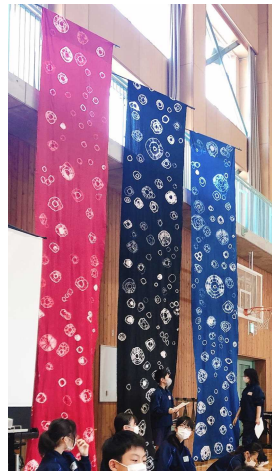
各クラスの意気込み発表



清水緑里さんへの感謝状贈呈



開祭宣言をする藤澤至恩さんと全校で制作したしぼり染め



開祭宣言のあと、充実した内容の意見文発表会が続きます。1年生の洪澤晴花さん、丸山信武さん、2年生の洪沢穂香さん、清水瑚太朗さん、3年生の小池桃香さん、山崎樹さんの計6名の生徒が意見文を発表しました。

成人年齢の引き下げについて考えた山崎樹さんは、「成人年齢の引き下げは、選挙権を得る18歳を含めた有権者全体の意識改革につながる。だから、私たち若い世代にとって、日本の未来や政治について主体的に考えて判断し、自分たちの声を政治に届ける大きなチャンスになる。」と述べました。

発表した6人の生徒だけでなく、発表者に目を向け、一生懸命に聴いて、自分の感想を記入する全校生徒の姿も印象に残りました。

### 生徒会企画「飯中ギネス」

生徒会が企画した「飯中ギネス」では、絵を描くことが得意な生徒が光輝けるために、「シークレット」というゲームが用意されていました。また、教室で生徒同士の会話が増えてほしいという願いを込めて「以心伝心ゲーム」というゲームもありました。「クラスで面白い人といえば？」というお題では、出場者全員の名前が一致していたクラスもありました。このように、生徒会の企画にも、「一人ひとりが光輝ける」工夫がありました。



意見文発表会と運動会の様子





吹奏楽部の発表は、体育館の密集を避けるため、入場人数を制限して1日目、2日目の2日間に分けて行われました。3年生にとっては、今年度、初めて最後の演奏の場。この日のために、練習の内容や方法が制限される中で準備を進めてきました。生徒の感想記入用紙に、「演奏と演出がすごく、まるで劇を見ているようだった」(2年生男子)、「手拍子をしたり、風船をもらったり、自分たちも楽しめる発表だった」(2年生女子)と記されているように、聴いている人も光り輝かせるような素敵な発表でした。



そして音楽会。各クラスの歌声の響きと美しさを認め合い、共に感動し合えたひと時でした。振り返ってみると2学期の始まりから毎日のように、どのクラスから、そして校内の様々な場所から、歌声が聞こえてきました。学校中に歌声が響き、音楽会一色の雰囲気でした。そして、校祭が終わった今も各教室から歌声が聴こえ、光輝いています。

3年生は、1、2年生のために校歌合唱も披露してくれました。ありがとうございました。



「万里一空」(世界は1つの空のもとにある) みんなの心を光輝かせたいという願いを込めて空に放った風船

## 藤木校長先生のお話

### 「輝きの正体」

開祭式に、「校祭中の皆さんの姿を見て、輝きの正体を見つける」という話をしました。見つけました。三つありました。一つ目。人は一生懸命だから輝く。

勝ったから輝くのではなく、ありません。成功したから輝くのではなく、ありません。お金をかけて環境を整えたから輝くのではなく、ありません。日の当たる所で咲いている花も、日陰で咲いている花も、その輝きが変わりはありません。一生懸命やっている人は皆、輝いています。

二つ目。人は調和の中で輝く。

目立つから輝くのではなく、ありません。もしルールやマナーを破った人がいたら、そこに生まれるのは不満です。車のヘッドライトを知っていますね。輝いていますね。でもあの車のヘッドライトをそのまま教室に持ってきていたらどうなりますか。ただの迷惑な光になってしまいます。教室に調和する輝きは、実は目立たない蛍光灯の光なのです。この校祭では、全校が集まる機会が何度もありました。気付いていますか。「静かにしてください」という指示

は一度もなかったのです。これは何を意味しているのでしょうか。皆さんが、時と場に調和して、静かに輝いていた瞬間だったと思います。

三つ目。人は受けとめる人がいるから輝く。

昨日の月を見た人いますか。きれいでしたね。あれを見て思っているのではなく、夜の空があるから輝いているのです。今回の飯綱校祭で、何人も人が発表をしました。発表を聞いて受けとめてくれる人がいたから発表者は輝いていたのではないのでしょうか。発表者が月の光なら、それを聞いて支えてくれる人は夜の空。両者が互いの一生懸命な思いに応えようとするから、全体が月夜として輝いたのです。

もし、今ここに、自分だけの歴史の教科書があったら、私はいこう書きます。「2020年10月2日、3日。飯綱町立飯綱中学校より謎の輝きが放たれ、人々に希望と勇気を与えた。」

皆さん、感動をありがとう。